

## 保護殺菌剤マンゼブを用いた効果的なネギべと病防除体系の確立

**【研究のポイント】**

ネギべと病は白ネギ栽培において重要な病害です。特に春の安定生産に大きく関わるため、病害虫対策チームでは平成30年から対策試験を実施し、ネギべと病に有効な薬剤の探索及び効果的な散布時期の検討を行いました。その結果、保護殺菌剤マンゼブを含む農薬の予防効果が高いことがわかりました。また、マンゼブを含む農薬を用いた防除体系を豊後高田市で令和元年12月から2年6月に実証した結果、十分な防除効果を確認しました。



べと病を発病したネギ
べと病の病斑
拡大した病斑

**【研究の成果】**

豊後高田市で2つの作型についてべと病防除体系を試験し、効果の高いべと病防除体系の実証ができました。

**試験Ⅰ**（12月上旬定植、5月下旬収穫の作型）  
 内容：12月に1回、3月に2回マンゼブと治療成分を混合した農薬を散布(表1,3)  
 結果：3月6日に初発を確認しました。5月7日の発病株率は慣行区で22.7%、試験区で0.7%となり高い防除効果を確認しました(図1)。

**試験Ⅱ**（1月中旬定植、6月下旬収穫の作型）  
 内容：2～4月に月1回、マンゼブと治療成分を混合した農薬を散布(表2,3)  
 結果：4月3日に初発を確認しました。5月28日の発病株率は慣行区で91.3%、試験区で4.7%となり高い防除効果を確認しました(図2)。

べと病の発病は気象の影響が大きく、適期防除が難しいですが、発病前にマンゼブと治療成分を混合した農薬を定期的に散布することで、防除が可能と考えられます。

**表1. 試験Ⅰの試験内容**

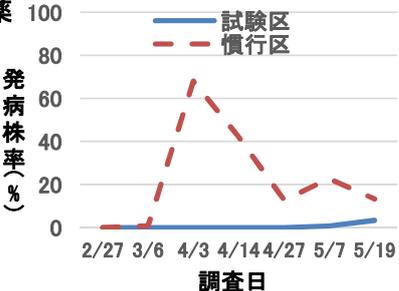
	12月			3月			4月			5月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
試験区	A			B			C					
慣行区	D						A			E F		

**表2. 試験Ⅱの試験内容**

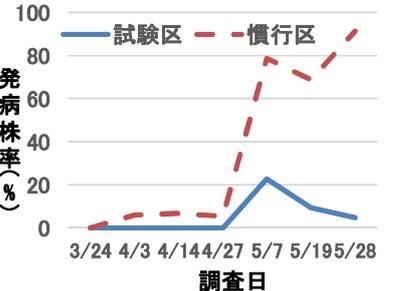
	1月			2月			3月			4月			5月		
	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上
試験区				A			B			C					
慣行区	A			F			G			E			E		

**表3. 試験に使用した農薬**

マンゼブ含有農薬	
A	リドミルゴールドMZ
B	カンパネラ水和剤
C	テーク水和剤
D	ペンコゼブ
マンゼブ非含有農薬	
E	メジャーフロアブル
F	アミスター20フロアブル
G	ザンプロDMフロアブル



**図1. 試験Ⅰの発病株率推移**



**図2. 試験Ⅱの発病株率推移**

**【生産者の声】**

べと病は発病後の防除では被害がおさまらず、苦勞しています。今回の試験結果から、発生していない冬の時期にも予防剤の散布が重要と認識できたので、これからは予防剤の散布回数を増やして防除したいと考えています。  
 (豊後高田市白葱生産部会部会長 井上 智彦 氏)



**【連絡先】**

担当：農林水産研究指導センター 農業研究部 病害虫対策チーム  
 TEL：0974-28-2078  
 住所：大分県豊後大野市三重町赤嶺2328-8